

個別施設計画に基づき常呂林道1号橋及び2号橋の修繕に係る実施設計を国と北海道の補助金を活用し、林道機能の維持と通行車両の安全確保を図ります。

大岩地区の斜面対策については、北海道が令和2年度から4か年計画で治山工事に着手しており、事業が円滑に執行されるよう、引き続き渡島総合振興局と連携していきます。

有害鳥獣対策では、ヒグマ、エゾシカはもろんのこと、キツネ、カラスについても、引き続き猟友会の協力をいただきながら駆除・捕獲を実施します。

なお、エゾシカに代表される野生動物の食用肉、いわゆる「ジビエ」への関心が高まる中、狩猟技術の伝承と担い手不足の解消のため、狩猟免許の取得に関する助成金を新規に創設して体制づくりに取り組んでいきます。

また、放牧馬についても、馬主や関係機関と連携しながら全頭捕獲に向けて、取組を継続していきます。

観光振興

次に、観光振興について申し上げます。

本町は、駒ヶ岳、噴火湾、間歇泉や温泉など豊かな自然環境、景観に恵まれ、併せて、歴史ある漁業の暮らしぶりや食文化、新鮮な海の幸や水産加工業の集積などがあり、こうした豊かな資源を活用するために、食と観光という視点から地域に住む人々が知恵を出し合い、地域に愛着や誇りを持つて持続可能な地域づくりに取り組むことが重要と考えています。

これまで本町では、北海道遺産である間歇泉を有する道の駅しかべ間歇泉公園を食と観光の交流拠点とし、

鹿部温泉観光協会と共に、自然や食を通じ、鹿部のファンづくりを進めてきました。

令和4年度においても、道の駅の魅力を高めファンを増やし、温泉観光協会はもとより、町民や事業所と連携強化を図り、交流人口の増による波及効果を生み出し、観光事業者をはじめ商工業全体の活性化を促していきます。

また、多様なニーズに対応した観光情報の発信につきましたも、関係機関との連携を強化し、「海と温泉のまつり」をはじめとする町内イベントの開催や、周辺市町と一体となった道内外でのプロモーションのほか、様々な情報媒体の活用により食や体験、景観など町の旬な魅力を広く発信していきます。

本年度においても、広く産業の活性化に寄与してまいります産業連携ビジョンに基づ

づき、A級グルメ構想の理念の醸成を図り、持続可能な地域づくりを目指していきます。

町内の各公園の整備については、新たに、ひょうたん沼公園内に景観等に配慮した施設の充実を図ると共に、それぞれの魅力を活かせるよう、各公園のコンセプトに基づきながら、維持管理などを計画的に進めていきます。

次に、地域公共交通について申し上げます。

本町の地域公共交通は、令和2年度に策定した「鹿部町地域公共交通網形成計画」に基づき、令和3年5月からコミュニティバスと路線バスを再編した「しかバス」が運行しました。

併せて、バス運行の空白地域において、10月からデ

地域公共交通対策

マンド交通の実証運行を開始し、令和4年度の本格運行を目指していくとともに、高齢者をはじめとする交通弱者の方々に、本町で安心して暮らしていただくため、より便利で効率の良い持続可能な地域公共交通を目指していきます。

また、北海道新幹線「新函館北斗駅札幌間」の開業に伴う、JR函館本線の並行在来線について、沿線自治体で構成する対策協議会において、JR北海道からの経営分離後の在り方について様々な角度から検討を進めていきます。

次に、子ども・子育て支援について申し上げます。

子育て支援については、「第2期鹿部町子ども・子育て支援事業計画」に基づき、子ども・子育て家庭の

子育て支援の充実